

雪の冷熱を利用したエコな農業倉庫



【施設の外観】



【雪の冷熱を利用した低温貯蔵庫】



【雪室に雪を搬入する様子】



【「雪室貯蔵米」】

＜概要＞

- ・ 事業主体： J A 北魚沼（新潟県魚沼市）
- ・ 運用開始時期： H24年 8 月
- ・ 総事業費： 約 9. 2 億円
- ・ 冷 熱 源： 雪（貯雪量： 約 1, 500 トン/年）

＜特徴的な取組＞

- ・ J A 北魚沼は、米倉庫の老朽化に伴い、倉庫の建て替えを検討し、魚沼地方に豊富に存在する雪の冷熱を利用した利雪型米穀低温施設（通称：雪室倉庫）を整備。
- ・ 冬期に施設内の雪室に蓄えた雪の冷熱を同施設の 3 つある貯蔵庫のうち 2 庫に供給し米を低温保管（残りの 1 庫は天候により降雪が少ない場合を想定し、電気による低温保管）。
- ・ 雪の冷熱を利用することで、施設内の電気消費量を抑えることができ、年間 78 トンの CO2 削減効果があると試算。
- ・ 安定した温度・湿度のもとで保存したことで、米の鮮度と食味を保つことが可能となり、同 J A は、雪室倉庫で貯蔵されたコシヒカリを「雪室貯蔵米」として付加価値を高めて販売。